

2020年7月15日
〈プレスリリース資料〉

「草の根・人間の安全保障無償資金協力」

サンパウロ州

「サンパウロ市児童養護施設屋根改修計画」に係る
草の根・人間の安全保障無償資金協力の供与式について

在サンパウロ日本国総領事館

7月14日(火)午前10時00分より、「サンパウロ市児童養護施設屋根改修計画」に係る社会福祉法人こどものそのへの我が国の草の根・人間の安全保障無償資金協力の供与式をウェブ会議にて実施しました。式典には野口泰在サンパウロ日本国総領事、小田押本セルジオ・こどものその理事長、他約10名が出席しました。

● **来賓の挨拶:**

(野口泰総領事)

「こどものそのは、1958年にサンパウロ州サンパウロ市において設立され、設立当初から日本人移民たちの間に生まれた重度の知的障害を持つ子供たちを受け入れ、彼らが少しでも自立した生活が送れるように、社会における適応力をつけるための活動を行っています。

入居者が普段生活をしている寮は建設から約50年が経過し、寮の屋根は老朽化により多くの箇所穴が空いており、雨漏りやそれに起因するカビの発生による健康面での不安、屋根の断熱性能の不足に起因する居住スペースの気温上昇による居住環境の悪化が懸念されていました。

この度、草の根・人間の安全保障無償資金協力により、女子寮の屋根の全面的な改修に対し、88,773米ドルを限度に無償資金協力を行いました。そしてこの度、このような立派な屋根が完成しました。今回の屋根の改修により、入居者の皆様の健康面での不安の軽減、居住環境の改善に貢献し、福祉の改善に繋げることができれば、当館にとっても大変喜ばしいことです。

また、頃末元理事長におかれましては、長年にわたる地域福祉向上への御尽力に敬意を表したいと思います。小田理事長におかれましては、新たな理事長として引き続きのご活躍を期待しております。」と祝辞を述べました。

(小田押本セルジオ理事長)

「まず始めに、今後少なくとも50年間に渡って裨益するであろう屋根の改修プロジェクトを実行できたことに感謝いたします。屋根を改修した建物は1960年代に建てられてお

り、屋根は50年以上使用されていたため、日本の皆様による時宜を得た改修に感謝申し上げます。

こどものそのは1958年に設立され、最初に15人の子供たちを受け入れました。その当時は、将来のことについては全く想像ができなかったと思います。設立の翌年には、イタケラ市の広い土地に施設を移転しました。移転の際、地域の若者や女性に、施設の建設、清掃、運営のためのインフラ整備に協力をして頂きました。また、地域の農家の皆様から子供たちに農業技術を教えて頂き、子供たちが農家を手伝うようになりました。また、子供たちの治療と訓練を兼ねて、長年にわたって農業、園芸、有機肥料生産、木工、陶芸などの活動も行ってきました。そして今や、我々は約70人の子供たちを受け入れています。

今月末に帰国される野口総領事におかれましては、これまでのブラジル日系社会における活発なご活動に感謝申し上げます。」と謝辞を述べました。

●案件の基本情報

案件名: サンパウロ市児童養護施設屋根改修計画

被供与団体: 社会福祉法人こどものその

プロジェクト実施地: サンパウロ州サンパウロ市

契約書署名日: 2019年11月7日

供与限度額: 88,773米ドル

供与品目: 女子寮部分の屋根の全面的な改修

●案件概要:

1. こどものそのは、1958年にサンパウロ州サンパウロ市において設立され、1959年にイタケラ市に移動しました。設立当初から日本移民たちの間に生まれた重度の知的障害を持つ子供たちを受け入れ、彼らが少しでも自立した生活が送れるように、社会における適応力をつけるための活動を行っています。
2. 入居者が普段生活をしている寮は建設から約50年が経過しており、寮の屋根は老朽化により多くの箇所が穴が空いており、雨漏りやそれに起因したカビの発生による健康面での不安、屋根の断熱性能の不足に起因した居住スペースの気温上昇による居住環境の悪化が懸念されています。
3. 今回の協力は、女子寮の屋根の全面的な改修(改修面積1,345㎡)に対し、88,773米ドルを限度に無償資金協力を行うもので、入居者の健康面での不安の軽減及び居住環境の改善により、地域福祉分野の改善に寄与することを目的としています。

(問合せ先) 在サンパウロ日本国総領事館経済班
(0xx11)3254-0100

【改修前の屋根】



【改修後の屋根】

